

令和8年1月8日(木)



新年明けましておめでとうございます

凜とした冷たい空気と雲一つない青空のもと、三学期が始まりました。登校してきた生徒たちの「おはようございます！」というあいさつの声も張りがありました。スカイバルコニーからのぞむ秀麗な富士山の姿も一段と輝いているように見えます。富士山を見ると不思議と気持ちが明るくなります。これは日本人に刻み込まれた DNA なのかな、などと考えてしまいます。



三学期始業式は、生徒たちの明るい表情に元気をもらいました。どの学年も集合時間よりかなり早く集まり、静かに開式を待つ姿に新年にあたってのやる気が伝わってきました。代表生徒のスピーチは、いつも素晴らしく、こちら身が引き締まります。どの学年も共通していた内容は、課題の克服でした。これまでの学校生活を通して、自分たちがよりよくなっていくために何が必要なのかをよく自覚していました。また、2年生代表の生徒からは、「感謝」というキーワードも出てきました。三学期は、感謝の学期であると私も思っています。日々、自分たちの学びや生活を支えてくれている様々な人々へ感謝の気持ちを伝える学期にしていきたいですね。私の式辞は、学校だより1月号の内容に即し、ノーベル化学賞を受賞された北川進教授の言葉などを紹介しました。北川先生が、子供たちに伝えたい言葉としておっしゃった「幸運は準備された心にのみ宿る」、「チャンスは祈るもんじゃなく、自分でつくり上げるもの」、これらをしっかり胸に刻み込んでほしいと思います。



私は、毎年干支の文字を書体を変えて書いています。自分にとってのこれが書初めです。上から楷書、行書、草書、象形文字で書きました。これを見た生徒が、「今年は、うし年か～」と言っていました。確かに「牛」「午」は形がよく似ています。しかし、文字の成り立ちは全く違うのです。「牛」は、牛の姿、とりわけ角をイメージしてできた文字ですが、「午」は餅つきで使う道具の杵（きね）からできた文字です。象形文字を見ると、たしかに杵に見えてきますね。



明日、1月9日(金)は、都合により「WEST LIFE 校長の目」は、お休みします。